

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	蔵王町立遠刈田中学校 1～3年生（3クラス・79名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（ アスリートの生き方に学ぶ会 ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（東京オリンピック・パラリンピック教育実践事業）
4 目標 (ねらい)	パラリンピアン（車椅子バスケットボール）からの経験談を聴くことを通して、困難に負けない強い気持ちを学ぶ。 障害を克服し、スポーツに取り組む選手の生き方に触れ、障害に対する偏見や差別をなくす。
5 取組内容	<p>〈事前準備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師間で、目的と役割分担の確認。 ・ 司会生徒とファシリテーターの打ち合わせ。 ・ 行事での、生徒と外部関係者との意見交換の機会を設定。 ・ グループ分けのアンケート実施。 <p>〈実施内容〉 「アスリートの生き方に学ぶ会」</p> <p>1 講演</p> <p>「リオパラリンピックを通して実感した、パラリンピックの理念と4つの価値について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩佐監督より、車椅子バスケットのルールや選手の障害の度合いなどの説明を受ける。 ・ パラリンピックで世界と対戦した経験についての話をしていただく。



2 グループディスカッション

テーマ「指導者・アスリートと日常生活との両立について」

- ・ 監督，選手それぞれを囲み，生徒司会で進める。
- ・ 各グループには，コーディネーター役の教師を配置し，サポート体制をとる。
- ・ グループは縦割りで，アンケートにより3班編制で実施。

(1) 監督グループでの話し合い内容

部長や委員長など，リーダー的な立場にある生徒で構成された。まとめる立場での悩みや，判断の仕方についての質問がされた。

- ・ 障害があり，できないこともある選手であるが，監督としての接し方について。
- ・ 障害を負っている選手であるが，選手起用の基準はどうか。
- ・ 世界と日本のプレーや体格の違いについて。



(2) 選手グループでの話し合い内容

選手男女2名が班に分かれて話し合い活動行った。障害をどのように受け止め現在に至っているかなどが，主な内容であった。男性・女性としての立場の違いなどについても話をいただいた。

- ・ 障害を負ってしまったとき，気持ちの整理がつくまでどうであったか。
- ・ モチベーションの維持の仕方について。
- ・ 競技に対する熱い思い。
- ・ 家庭と選手の両立について。



6 主な成果

- ・ 世界で活躍する選手との交流を通して，プロスポーツを身近に感じることができた。
- ・ オリンピック・パラリンピックを身近なものに感じることができた。
- ・ 障害を負った選手の生き方に触れ，前向きな心を持つことの大切さを知ることができた。
- ・ 障害者への関心が高まり，高齢者施設訪問時も相手のことを思いやり活動することができた。
- ・ 常に上位にいるチームの苦勞を知ることにより，選手としてのモチベーションの持ち方を考える機会となった。
- ・ 監督としての見方や考え方に触れることができた。
- ・ 自分の思いを伝える中で，相手を考えた言動で質問するなど気を遣うことができるようになった。
- ・ 町主催のオリ・パラ関連事業において，3年生はスタッフとして選手のサポートを任されるまでになった。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 3年間の継続的な行事としたことで、ゲストに対する接し方が身に付き、話し合いをしやすい環境を整えることができた。 • 講義形式の一方向的に話を聞く行事ではなく、ゲストと意見交換をする場として、「聞くのではなく、話す行事」と設定した。 • 生徒司会にしたことで、生徒の主体性が見られ、行事への取り組み意欲が全体的に高まった。 • グループは、生徒アンケートにより縦割りで決定した。自分の立場を考えて選択することで、質問もしやすくなった。 • 町関係者や保護者にも通知し、地域住民等も参加できる行事とした。 • 小規模校の利点を生かし、班20名程度での縦割り活動ができた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 継続的な行事とすることでの予算的な確保。 • ディスカッションをメインとしたときの、生徒の参加意欲を高める準備。 • 教師のファシリテーターとしての能力や研修の機会。 • 教育活動での位置づけと時数の取り方。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の実施予定はないが、福祉教育や外部団体との交流を通じた行事は継続して行く予定である。</p>